

# 日本ビジネス実務学会 中国四国ブロック会報 第31号

Bulletin of the Japan Society of Applied Business Studies,  
Chugoku-Shikoku Bloc, No. 31

発行日: 2020年3月31日  
編集責任者: 佃 昌道(高松大学)  
事務局: 〒761-0194 香川県高松市春日町960番地  
URL: <http://jsabs.hs.plala.or.jp/>

## ブロックリーダーより 佃 昌道 (高松大学)

2017年度の活動報告になりますが、第36回全国大会が近畿ブロック担当により、神戸大学 六甲台第2キャンパス・農学部を会場に2017年6月10日(土)、11日(日)の日程で開催されました。基調講演、総会、JAUCB助成研究報告、シンポジウム、研究発表24件とポスター発表12件がありました。

第34回ブロック研究会は、2017年8月26日(土)、27日(日)の2日間にわたり、松山東雲学園大街道キャンパスにおいて、11名の会員等と学生プレゼンテーションの発表者12名を加えた23名の参加を得て開催されました。

ブロック研究会では、シンポジウム「中国・四国ブロックの歩みと今後」と、定例総会、第12回学生プレゼンテーション大会、会員による研究発表5件という内容で実施されました。

シンポジウムでは、これまでの中国・四国ブロックの歩みを振り返りと共に、今後のブロック研究会の課題について会員同士の共有を行いました。

12回目を迎えた学生プレゼンテーション大会は、12名の学生が参加。熱心なご指導もあり、年々プレゼンテーションの内容・方法ともに質が高くなってきており、すばらしい発表でした。自らの課題や学習内容の成果など発表の内容も多彩に富み、今後の展開が期待できる内容となったように思いました。

研究発表会では、活発な質疑応答が行われ、研鑽を積むに相応しい場となりました。大学・短期大学において、教育の質保証が求められている時代です。教育現場で直面する課題に向き合い、総合的な教育力を発揮するためにも、研究や授業開発・実践の成果を研究会で発表していただくことが肝要となってきています。

また、恒例の懇親会は、会場を移して開催され、和やかな雰囲気の中での活発な議論が続き、有意義なひと時を過ごしました。

ご多用にもかかわらず、数多くの方のご参加ならびに貴重なご発表をいただきましたこと、運営等にご尽力くださいました会員の方々、とりわけ開催校会員の方々に深く感謝申し上げます。

2018年度全国大会は中四国ブロックの担当で徳島で6月9日(土)、10日(日)に実施されますので、ご協力よろしくお願いいたします。

次期研究会を香川地区で開催することが、ブロック研究会総会において承認されました。第35回ブロック研究会は、2018年8月25日(土)、26日(日)に高松大学・高松短期大学で開催する予定です。数多くの研究発表、共同研究助成発表(募集中)とともに、多数のご参加を心よりお願い申し上げます。



日本ビジネス実務学会  
 第34回 中国四国ブロック研究会 プログラム  
 (2017年8月26日・8月27日 於：松山東雲学園 大街道キャンパス)

【8月26日(土)】	
12:30～	受付
13:00～	開会の挨拶 当番校挨拶 事務連絡 ブロックリーダー 佃 昌道 桐木陽子
13:10～	総会
	学生によるプレゼンテーション発表会 (発表:5分)
13:50～	①ディズニーおもてなし研修 -気づくことからはじまる「おもてなし」- 松山東雲短期大学 2年 高市さつき・門田愛央 松山東雲女子大学 2年 田中瑠莉・松岡瑛奈 ②ディズニーおもてなし研修 -私たちの考える「おもてなし」- 松山東雲女子大学 3年 吉金愛美・岡佑里佳・2年 川中希望・相原愛永 ③薬学部を志望し、薬学部で学んで 徳島文理大学 香川薬学部 薬学科 2年 宇田周平 ④英語学習とバスケットボールと 徳島文理大学 短期大学部 言語コミュニケーション学科 1年 遠藤壮一郎 ⑤鏡野町での買い物弱者の現状と課題解決提案で得た経験 中国学園大学 国際教養学部 3年 景山麻友美 ⑥まびファームでの体験を通じて得たこと 中国学園大学 国際教養学部 3年 角永友菜
15:00～	休憩 (20分)
15:20～	学生プレゼンテーションの表彰
	シンポジウム
15:30～	中国・四国ブロックの歩みと今後 ブロックリーダー 佃 昌道
17:00～	事務連絡
18:00～	懇親会 (於：四季瀬戸の味 たにた)

【8月27日(日)】	
9:10～	受付
	研究発表 (発表20分・質疑応答10分)
9:30～	①学生の地域ボランティアの動機と大学授業～トップリーダー講義を通じて～ 中国学園大学 佐々木公之
10:00～	②学生通訳ボランティアと日本語の語彙について 徳島文理大学 短期大学部 堀口誠信
10:30～	③同族企業における経営倫理の必要性 税理士法人 越智会計事務所 森本 光
11:00～	④キャリア・アダプタビリティとビジネス実務教育 松山東雲短期大学 桐木陽子
11:30～	⑤地方短期大学における実務教育 高松大学 佃 昌道
12:00～	閉会の挨拶 次期当番校

## 研究発表概要一覧 発表者氏名、所属、タイトル、発表概要の順

### 1. 佐々木公之(中国学園大学)

#### 産学協働人材育成の取組みの効果と検証 ～「トップリーダー講義」などを通じて～

##### 1. 研究の背景

中国学園大学国際教養学部では、地域発グローバル人材育成をテーマに2015年4月に開学した。大学全体として「地域から愛される大学」をモットーに教育・研究活動に励んでいる。特に、国際教養学部では、産学協働人材育成と銘打って、主に、地元企業を中心として、産業界とのコラボ授業を提供している。

本年、開学3年目を迎え、1年生前期にて実施している「トップリーダー講義」のアンケート調査と授業感想を基に、教育的効果の検証を行った。



##### 2. 産学協働人材育成とは

文部科学省は、多様な社会の要請に対応できる人材や、新たな産業を創出する創造性豊かな人材が不可欠であり、実践的な人材の育成として、産学連携による実践型人材育成事業の必要性を唱えている。

岡山県でも、(一社)岡山経済同友会が、「ボランティアプロフェッサー制度」を設け、会員企業の経営者等を大学等に講師として、実践的講義を行うなど、産学が協働しての人材育成の重要性を増している。

##### 3. 「トップリーダー講義」について

国際教養学部では、トップリーダー講義として、1年次後期に企業経営者や地域創生で活躍する代表や起業家等を講師に招き行っている。各業界のトップリーダーが、業界動向や学生が抱える就職・進学に対する疑問や悩みに対し、直接指導を受ける機会を持ち、加えて、学生時代に身に付けておくべき社会的スキル等の指導を授業となっている。

##### 4. 「トップリーダー講義」のアンケート結果より

「トップリーダー講義」にて、約90%が「有益」を感じている。「有益」と感じた学生は、「視野が広がった」、「学生時代に何をすべきかヒントがたくさんあった」などの回答が目立った。一方で、「有益でなかった」と答えた学生は、「自慢話だった」「単に、偉いさんの講義」との否定的なコメントも見受けられた。

また、講義者別に分析すると、学生たちは「大手企業の取組み」に対してより、「中小零細企業の経営者及び地域創生」の取組み活動に共感を覚える傾向があると分析する。

##### 5. 「トップリーダー講義」受講後

トップリーダー講義を受講し、講師の行う社会的活動に共感した学生が、町づくりイベント、農業など地域活性化へのボランティア活動に約30%の学生が自主的に参加している。

また、長期インターンシップや登壇した講師から投げかけられた実際の課題解決(PBL)を卒業研究のテーマとしている学生も数名現れた。

##### 6. 産学協働人材育成授業での Key Factor

①人材育成の目的をしっかりと伝えること。②学生の共感ほ、会社の大きさに比例せず、講師の考え方、活動に共感する。③講師の講義スキル、性別・年齢などは大きく影響する。④講義内容によっては、学生の心を大きく動かし、その後の学生生活に大きく影響する。⑤学生への動機付けも影響する

##### 7. おわりに

これらの成果を踏まえ、今後も、学生にとって「産学協働人材育成プログラム」開発について研究を行いたい。

### 2. 堀口 誠信(徳島文理大学短期大学部)

#### 学生通訳ボランティアと日本語の語彙について

徳島文理大学は、徳島市阿波踊りの期間中、2017年8月12日(土)、13日(日)に昨年同様、阿波踊り通訳ボランティアを派遣し、12日(土)～15日(火)の4日間には、今回初めて阿波踊りアナウンスボランティアを派遣することとなり、のべ32人もの学生(英語通訳＝日本人学生、中国語通訳＝台湾人留学生)が地域のイベントに貢献した。

昨年の経験から、実際の現場では、単なる全体の阿波踊り情報チラシの配布やうちわ配りのブースではなく、外国人専用の相談窓口であることを明示する「English OK」

や「中文 OK」のような看板を立てることで、昨年より効率的に外国人観光客の対応ができた。日本人観



光客がこのブースを避けて別の日本人専用の相談窓口に行き、逆に、通りすがりの外国人観光客はこの看板を見つけると引き返して来て、英語のパンフレットや地図を昨年より多く持ち帰ることとなった。また、宿泊所を取り損ねたスイス人観光客にネットカフェの地図を渡し、タクシーの運転手に見せるよう、その住所を日本語で書いた紙もあわせて渡すなど、実質的な便宜を図ることにもなった。

英語教員として勤務し、英語で何ができるのかを模索している身としては、学部学科の国際化プログラムの特徴づけやそれに伴う入学者増などの動向、短大との格差拡大なども大変気になるところではあるが、通訳のような実際の現場で、どのような英語や日本語の表現が重要な鍵を握っているのかを詳しく分析してみたくなり、今回、「英語で紹介する日本」というテーマでよく扱われている日本特有の語彙を、現代の日本人大学生がどの程度説明できるのか、また、それらの語彙にどのくらい馴染みがあるのか、に関して調査を行った。例えば、「頑張る」という、英語に最も翻訳しにくいものとして扱われることの多いこの語彙は、「我を張る」（スタンドプレーに走る）という意味の、マイナスな語源を持ち、これが好ましいニュアンスで使われるようになるのは昭和初期である。このように、英訳する前に、日本語としてその意味がよく説明できない場合が多く存在する。

そのような類いのもので今回、「八つ当たり」「建前」「義理」「人情」「侘寂（わびさび）」「気障な（きざな）」「粹な（いきな）」の7語を取り出し、本学学生1, 2年生356人に「この言葉の意味を自分で説明できるのか」「自分自身でもこの言葉を実際に使ったことがあるのか」という問いを投げかけるアンケート調査を行った。さらに、日本特有の文化体験として扱われることの多い「歌舞伎鑑賞」「能の鑑賞」「人形浄瑠璃の鑑賞」「空手の実演・観戦」「座禅の体験」「生け花の体験」「茶道の体験」の7項目についてもアンケート調査を行い、分析・考察を行った。その結果、「人情」の意味はわかるが使用頻度は低く、逆に「義理」の意味はわからないが、使用頻度が高いなど、興味深いデータが得られた。

### 3. 森本光(税理士法人 越智会計事務所) 同族企業における経営倫理の必要性

はじめに

我が国では国税庁が公表している「平成27年度会社標本調査結果」によると法人企業の約97%が同族企業である。同族企業においては通常では考えられないような恣意的な取引が行われる。これは、経営の所有と分離がされていないということだけではなく、経営倫理観の欠如も一因として考えられる。

今回の発表では、法人税法の判例等を検討し、同族企業においていかに経営倫理が必要であるか考察したい。

#### 1. 検討する判例等

事例①では「しょうちゅうの製造販売等を営む同族企業の取締役（代表取締役の妻）に対する役員報酬の適正額」について検討した。この事例では代表取締役の妻で取締役である者に支給した役員報酬の損金算入の可否が争われた。判決は適正報酬を超える部分は業務の対価とはいえ判決は棄却された。

事例②では「不動産管理等を目的として設立した同族企業が支出した交際費の損金算入の可否」について検討した。この事例では同族企業が支出した交際費についての損金算入の可否が争われた。判決は法人税を不当に減少させることになるとして棄却された。

事例③では源泉徴収義務者と厚生年金適用事業所との情報の不一致について検討した。この事例では厚生労働省の調査結果において国税庁が保有しているデータと日本年金機構の保有しているデータに不一致があることが分かった。

#### 2. 経営倫理を高めるためのCSR活動の重要性

梅津氏はCSR活動を行うことによる効果として、「①企業イメージの向上、②企業に対する信頼の向上、③市場シェアの向上、④事業規模の拡大、⑤事業視野の拡大、⑥従業員のモチベーションの向上、⑦コスト削減と効率性向上、⑧リスクマネジメントの向上、⑨収益(の確保)」を挙げられている。CSR活動を行うことによってステークホルダー、ひいては社会全体に効果をもたらすことになる。これは企業自身の利益になることになると思われる。また企業の社会的責任の階層においては、同族企業は法的責任



が達成できていないのではないであろうかと考えられる。

### 3. 松山商工会議所の取組の紹介

松山商工会議所の調査結果では、事業主においては約8割が取り組んでいることが分かった。しかし、市民へのアンケートにおいては約6割がCSRという言葉は知っているが内容までは理解していないということが分かった。

おわりに

地方の大学において大多数の学生が同族企業に就職するといえる。同族企業がより社会から求められ、必要とされる会社になるためには、そこに就職する学生達が経営倫理を理解し実践できる必要があると考える。したがって、学生に経営倫理教育をしていく必要があるのではないかと提言したい。

## 4. 桐木 陽子(松山東雲短期大学) キャリア・アダプタビリティとビジネス実務教育

### 1. 愛媛県の現状

本学が所在する愛媛県は、少子高齢化先進県である。2015年の国勢調査結果によると、人口1,385,262人で初めて県内すべての市町の人口が減少し、戦後の調査で初めて人口140万人を割った。減少割合が6%以上の市町が11(20市町中)もあるなど深刻な状況が続いている。生産年齢人口の減少は、企業にとっては人手不足感が蔓延している。しかしながら、女性は第1子出産を機に6割の女性が離職するなど、子育て期にあたる30歳代で低下する女性労働力率は依然として「M字型カーブ」を描いている。就業希望者を加えた潜在的な労働力の活用、働き方改革・女性活躍推進は本県にとって喫緊の課題であることは言うまでもない。



### 2. 大学生を対象とした意識調査結果

2015年に愛媛県内の大学生を対象に実施したアンケート調査結果から、「働く」ことや「結婚」に対する意識は男女ともに大変強く、「子どもがいるいないにかかわらず、夫婦ともに働きたい」と希望する割合が過半数を超えていること、さらには、仕事と家庭生活等のバランスをとった生活をしたいという志向性が高いことを把握することができた。

### 3. 今後求められるキャリア教育

急激に変化するビジネス社会にあって、自分たちの思い描いたキャリアを自律的に築いていくためには、「静的なキャリア理論」(自己を理解し、職業を理解すれば自分に適した職業に出会うことができる(マッチングが前提)から「動的なキャリア理論」(キャリアは偶然性に支配されている「計画された偶然性理論(クルンボルツ)」への転換が必要ではないだろうか。偶然性を積極的に活かすためには適切なコンピテンシーが必要であるが、予期しないできごとをただ待つだけでなく、自ら創り出せるように積極的に行動したり、周囲のできごとに関心をもち、偶然を意図的・計画的にステップアップの機会へと変えていくことが求められている。

### 4. 開発すべきビジネス実務能力

開発すべきビジネス実務能力は、エンプロイアビリティ(雇用される能力)に加えて、アダプタビリティ(環境変化に対する適応性)ではないだろうか。具体的な教育実践として、次の取組を始めた。(1)学生の基本コンピテンシーの早期把握—客観的な自己評価能力 (2)インターンシップの拡充—受入事業所に「インターンシップポリシー」策定依頼、メンター制度導入 (3)チーム力向上のための事例研究—「関係の質」「思考の質」「行動の質」向上を目指す

こうした取組の効果検証を行いながら、新たな授業展開を検討したい。

## 学生プレゼンテーション大会 発表内容一覧

### ①松山東雲短期大学 2年 高市さつき・門田愛央、松山東雲女子大学 2年 田中瑠莉・松岡瑛奈 ディズニーおもてなし研修 ー気づくことからはじまる「おもてなし」ー

平成29年、私たちは「おもてなし」とは何かを学ぶために「ディズニーおもてなし研修」に参加した。事前研修として実施された企業でのインターンシップ研修で実社会を経験したうえで、ディズニーリゾート内での「おもてなし」を探った。そして、事後研修でさらに考えを深め、「おもてなし」を追究してきた。実際に見たもの、感じたことから、私たちが学んだことを発表する。

### ②松山東雲女子大学 3年 吉金愛美・岡佑里佳・2年 川中希望・相原愛永 ディズニーおもてなし研修 ー私たちの考える「おもてなし」ー

平成29年1月に「ディズニーおもてなし研修」に参加することが決まり、毎月ミーティングを重ねてきた。回数を重ねるごとに成長を感じることができている。自分かちのできる「おもてなし」とは何かを常に考え、今のキャンパス内に足りないものは何か、改善するためにどのようにすればよいのかについて話し合ってきた。私たちの考える「おもてなし」や、これまでの活動を通して感じた自分たちの成長、今後の課題について発表する。

### ③徳島文理大学 香川薬学部 薬学科 2年 宇田周平 薬学部を志望し、薬学部で学んで

私は、小さいころから有毒生物に興味があった。その当時は、有毒生物は人間に害を与える生き物という知識しかなかった。しかし、例えば、アメリカドクトカゲの毒牙に含まれる毒はインスリンの分泌を促す効果があり、糖尿病の治療に使えるなど、有毒生物の成分が薬にも使われることを知り、本格的に薬学部を目指すきっかけとなった。現在は薬学部の2年生であるが、さまざまな先生からの刺激を受け、有意義に学んでいる。

### ④徳島文理大学 短期大学部 言語コミュニケーション学科 1年 遠藤壮一郎 英語学習とバスケットボールと

大学に入学する前、英語の勉強のため、約1年間、サイパンで過ごした。高校時代からやっていたバスケットボールも現地の仲間と一緒に続けたが、最低限のメンバー数が確保できず、高校時代の部活のように、正式なチーム同士の対戦にならず、社会人チームの助っ人として出場する場合も多かった。英語・バスケットボールの両方とも、楽しい半面、苦勞も多かったが、帰国し、大学でその両方を続けている。

### ⑤中国学園大学 国際教養学部 3年 景山麻友美 鏡野町での買い物弱者の現状と課題解決提案で得た経験

平成28年、ゼミでの研究として岡山県鏡野町での買い物弱者への企業の活動を調査した。また、実際に地元のホームセンターが行っている取組み活動を調査し、課題解決の提案を行った。このゼミ活動にて得た経験と実際に企業・行政への課題解決提案にて得た経験、学生として中山間地域の現状について発表する。

### ⑥中国学園大学 国際教養学部 3年 角永友菜 まびファームでの体験を通じて得たこと

平成28年7月、倉敷市真備町の耕作放棄地に三世交代交流の場として、まびファームを造った。まびファームでは、施設の利用者さんや学生、子どもたち、地域の方が一緒になって農作業やDIY体験、動物の餌やりをするなど、地域活性化にもつながる活動を行っている。開園から現在に至るまで、自分が携わった経験を通じての感想、想い、また、この体験でしか得られなかったことを発表する。

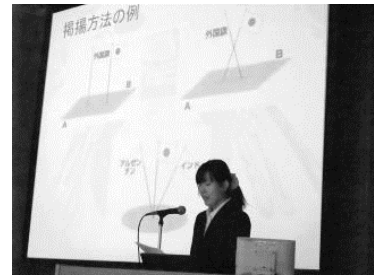
## 会員校紹介（高松短期大学 秘書科）

高松短期大学秘書科は、昭和58年に創設された歴史と伝統を誇る学科です。秘書科の目的は、高度なビジネスの専門知識や技能の修得とともに、豊かな人間形成を視野に入れた幅広い教育を行うことにより、社会の第一線で活躍できる人材を育成することにあります。

現在の秘書科には、「ビジネス秘書コース」「医療事務コース」「サービス実務コース」の3つのコースがあります。この3つのコースは、平成25年度に各コースの目標と学びを明確にし、大幅にカリキュラムを見直してスタートしたものです。ビジネス秘書コースは、銀行員、一般企業の事務職員、公務員などをめざします。医療事務コースは、医療事務、医療秘書、病院受付、医療クラーク、調剤薬局の受付などをめざします。サービス実務コースは、ホテル、百貨店・各種店舗の販売、一般企業の営業などをめざします。学生は将来の目標に合ったコースを選択し、入学時からコースに分かれて専門知識を学び、積極的に各種検定の取得にチャレンジします。各コースの学びと並行して、社会人としてのマナー、文書作成力、情報処理の基礎知識、パソコン操作の技能などを身に付けていきます。また、2年次には、各コースの学びを深めるためにコース別に2週間の実習を行います。公的機関、病院、ホテルなどでの実習を通して、目の前の課題に取り組み問題解決能力を身に付けるとともに、コミュニケーション能力を高めていきます。

秘書科の学生たちのほとんどが香川県で就職しますので、地域について学ぶ機会を多く設けています。地方自治体や地域で活躍している方々の講義を受けたり、地域活動に参加させていただいたりしています。郷土の歴史や文化、香川を代表する人物、香川の行事や特産品、瀬戸内海の美しい自然などを若い視線で学んでいます。

秘書科は、今後も、地域のビジネス社会を支えることのできる職業人を育ててまいります。



秘書科代表者卒業研究発表会



入学準備セミナー



JR ホテルクレメント高松での「サービス実習」



学外セミナー（テーブルマナー）



マルシェ実習

## 総会概要（2017年度日本ビジネス実務学会中国・四国ブロック研究会）

日 時：2017年8月26日13：10～13：50  
会 場：松山東雲学園 大街道キャンパス

【1号議案】 第36回全国大会・理事会報告

【2号議案】 2016年度ブロック事業報告・決算

- 1) 第33回ブロック研究会の開催  
開催日：2016年8月27日・28日  
会場：中国学園大学  
講演：「地方で新しい仕事を生み出す ～若い世代が考えるこれからの働き方～」  
株式会社いち 代表取締役社長 兼 NPO 法人タブララサ理事長 河上 直美 様  
発表件数：5件  
参加人数：12名
- 2) ブロック研究会総会の開催  
開催日・会場は第33回ブロック研究会と同じ。
- 3) ブロック会報（第30号）の発行
- 4) ブロック研究助成の募集
- 5) 学生プレゼンテーション大会の実施  
参加者：6名  
開催日・会場は第33回ブロック研究会と同じ。
- 6) 運営委員会の開催  
第1回 運営委員会 2016年8月28日

【3号議案】 2017年度ブロック事業計画・予算

- 1) 第34回ブロック研究会の開催  
開催日：2017年8月26日・27日  
会場：松山東雲学園 大街道キャンパス  
シンポジウム：「中国・四国ブロックの歩みと今後」
- 2) ブロック研究会総会の開催  
開催日・会場は第34回ブロック研究会と同じ。
- 3) ブロック会報（第31号）の発行
- 4) ブロック研究助成の募集
- 5) 学生プレゼンテーション大会の実施  
開催日・会場は第34回ブロック研究会と同じ。
- 6) 運営委員会の開催  
第1回 運営委員会 2017年8月  
第2回 運営委員会 2018年6月

【4号議案】 2018年度全国大会について

【5号議案】 ブロック運営委員について

【6号議案】 次回開催校について

会 場：高松大学・高松短期大学  
香川県高松市春日町960番地  
開 催 日：2018年8月25日（土）・26日（日）